

同志社今出川校庭の樹木

—さまざまな植樹から学園の歴史をたどる—

元大学社会学部教授

宇治郷うじこう

毅つよし

同志社の今出川校庭（大学および女子大学側（女子部）両者を含めて）には、狭いながらも多くの美しい樹木が多い。50種類にのぼる大小の樹木は学園の美観を整え、教職員、学生および来訪者におおきな慰安を与えている。しかし、樹木は校舎などの建築物と違ってともするとその大事さが忘れられがちである。私もこの大学で学んだが、学生時代はただぼんやりと眺めていたに過ぎない。

私が今出川校庭の樹木に関心をもつようになったのは、8年前に母校の教員として迎えられてからである。それは私の研究テーマの一つに「同志社に学んだ留学生」があり、調査の過程でたまたま1925（大正14）年に同志社創立50周年記念の時、朝鮮人留学生団体が校庭に記念植樹をしたという事実を知ったからである。これは大きな驚きであったが、さらに同志社社史資料センターからその時の記念写真（海老名弾正総長ら教員と朝鮮人学生ら40人ほどの集合写真）の提供

を受け、校庭の樹木への関心は一段と高まった。

調べていくうちに長い歴史をもつわが学園には興味深い来歴をもった樹木が多いことを知った。特に卒業生や有志によって寄贈された樹木（寄贈植樹）と様々な理由で記念のために植えられた樹木（記念植樹）に興味を引かれた。また同時に、戦前から少数ではあるが校庭の樹木に関心を寄せ、愛護されてきた先輩達がいいたことを知って嬉しかった。そして校庭の1本、1本の樹木には、人それぞれその歴史があるように、貴重な歴史を秘めているものが多いことを知り、感銘を新たにし、母校への思いをさらに深くしたのであった。

さて同志社では、1875（明治8）年の創立以来学校当局によつて校庭整備の一環で植樹が熱心になされ、さまざま樹木が植えられ、校舎増築の関係で伐採や移植されるケースが多かったとはいえ、それでも比較的大事に扱われてきた

と言えよう。そのような植樹には、大きく分けて次の3種類がある。

第1は、当然のことだが校庭整備のために学校当局が行う植樹である。これが大部分であるが、造園、植樹の考えと歴史は複雑で必ずしも明確ではない。戦前は、一般的に教職員、学生の校庭への関心と愛着が現在より強かったようだ。その先鞭を切ったのは校祖新島襄である。先生は多くの種類の植物を校庭や私邸に植えたようだが、「カタルパ」もその中の一つであった。この木は今や大学の校庭では無くなったが、女子大学今出川校庭には2010年に秦芳江女子大学名誉教授が植樹したものがある。また大正期には教職員、学生からなる「校庭を愛する会」の清掃、造園、植樹などの校庭美化運動があったことも忘れてはならない。戦後では、上野直蔵元総長が校庭の樹木や草花を人一倍愛護されたという。また住谷悦治元総長は、同志社における「五つの憲章」を提唱し、そのうちの第四に、

「わたくしたちは、学園内を美しく清潔に保ちましょう。学園内のあらゆる建築物、教室、廊下、器具、用度いっさい、庭園の樹木、柵、いっさいのものは、長年にわたる同志社人の尊い歴史的遺産である。」(本誌第7号(昭和38)及び「同志社の一隅から」法律文化社)と述べている。庭園の樹木にまで「尊い歴史的遺産」と明確な位置づけをされた高い識見に敬意を表したい。

第2は、「記念植樹」である。これは、あらゆる時代にいろんな理由でしばしば行われてきたが、その根底には母校の発展を願う切なる思いがある。記念植樹では、学校当局が開校何周年記念などで行うのが代表的な事例である。同志社でいところから記念植樹が行われたかは不明であるが、大学側で記録された記念植樹の最初は1925(大正14)年11月「創立50周年」記念植樹である。これは神学館(クラーク記念館)両横で、海老名総長、ラーネット博士、新島襄夫人八重、デントン教授によって「月桂樹」と「榆」が植えられた。同志社が苦難の50年を経て、学園のさらなる発展を願った意義深い植樹であった。最近では2013年2月、京都府、福島県、同志社三者による彰栄館東のサンクタスコートに「脊保桜」

の植樹があつた。これも、学園と自治体が絆を強めようとするもので意義深い。

このほか記念植樹には、学生団体や個人によるものも多い。代表的なもの、1948(昭和23)年3月卒業の旧制中学校卒業生による卒業50周年記念の植樹である。これは「礼拝堂」の前に紅梅、白梅を1998年に植樹したもので、今や毎年春先に満開となり、我々の目を樂ませてくれている。同志社の心臓部に新島先生が愛し、同志社学園のシンボルともいえる梅が植えられたことはまことに喜ばしい。このほか留学生による植樹として前述の「全同志社朝鮮人留学生会」による植樹と、「尹東柱詩碑」が1995年に建立された時、その碑の左右に韓国の国花の「ムクゲ」と朝鮮民主主義人民共和国の国花と言われる「ツツジ」の植樹があり、これは他大学に例を見ないので、同志社の国際主義と良心教育の発露と言えよう。その他、大学彰栄館前の「ヒマラヤ杉」は1911(明治44)年に新島先生の直弟子が受洗記念に植えたものでいかにも同志社らしいものだ。また1943(昭和18)年に出征学徒達が生徒植樹した「オガタマノキ」も忘れたい。個人を偲ぶものとして、女子大学側には「越智文雄先生を偲ぶ会」による「ヤマ

ボウシ」の植樹などがある。

第3は、国内外にいる卒業生や篤志家からの寄贈による植樹である。同志社には戦前に篤志家から寄贈された有名な二つの並木がある。大学校庭の中央に位置する美しく風格のある「樟樹並木」と今出川通りに沿って大学から女子部にかけて深い緑陰をたたえる「松並木」はまさに「歴史的遺産」にふさわしい。めずらしいものでは、大学側には外国の団体(ハワイの「ヌアヌ組合教会」)が寄贈した染井吉野桜がある。女子大学側には、デントン先生ゆかりの「スモークツリー」がある。これら寄贈樹木には、学園の発展を願う気持ちと親善友好を願う気持ちが込められている。同志社人として感謝したいものである。

このように今出川校庭には同志社らしい来歴をもつ樹木が多い。これらの樹木は、校庭の美化に大いに貢献してきたし、現在学園に生活する教職員、学生に大いに安らぎを与えている。私はぜひ同志社に学ぶ生徒と学生に学園内の樹木の歴史を教えてほしいと願っている。それにより生徒と学生は、自然への理解を深め、さらには植樹した人への関心呼び起こし、愛校心を高め、学園の歴史を顧みることという教育的効果も期待できるのである。